



福島県農民連
第33回
定期総会

「農業の変革が鍵を握る」

生産と環境保全を両立した、持続可能な社会への転換を果たそう

討論参加者の発言から

◆須賀川農民連 丹治 実さん

台風19号により、会員の1割が床上浸水や農機具被害を受けている。国や県からの農業支援メニューができているが、現場での説明はこれからで、各自治体に要請行動を行う。この被害で一人の離農者も出さないようがんばっていきたい。農民連の支援活動を見ていた農家の方が会員に入会されるなど新しい展開も生まれている。県内各地から救済支援に、100名を超える方が参加していただき感謝したい。

◆県北農民連 佐藤 紫苑さん

結婚を機に今年から農業を始めました。生きることは食べることと考えたし、主人もこれまで農薬をなるべく使わないようにしてきた。SDGsは遠い世界の話で、声を上げてもあまり変わらないと思っていたが、この総会で自分たちが一番声を上げるべきことだと感じた。みんなが安心して食べられることが大事だと思う。一人の力は小さいが、ここにいるみんなと協力して農業をやっていきたい。

◆安達地方農民連 菅野 正寿さん

3年前から多面的機能支払いを活用し、棚田にビオトープを作った。地元の小学生40名が泥んこになりながら生き物調査をしたり、虫を見る会に地元の方々70名が参加してくれる。原発事故時3歳だった子供たちは土を触ることもできなかつたが、この体験をさせることは大人の責任で大事だと思う。

1haの水田では障害者の方の協力も得て、「はせがけ」で稻の乾燥を続けている。小規模な田んぼでは、5組の夫婦が「私のたんぼ」を作り、農作業と収穫の喜びを感じている。農村は農産物生産だけの場ではなく、都市住民や子供たちのコミュニティの場でもあり、いつまでもこの風景を残していきたい。国の制度を活用しているが、現状の単価では低すぎるので、充実を求めていきたい。



農民連flash

安達女性部・税金学習会でスイッチオン!

12月5日(木)「みづばちかだんプロジェクト」の取り組みに13名が参加しました。その後税金学習会を行い、軽減税率の対応・インボイスについて学びました。また、プラスチックごみを減らす対策で「みつろうラップ」作りも体験し、楽しく仕上げました。お昼は手作りの暖かい豚汁とおにぎりを食べ、今年一年のご苦労さん会をしました。



令和元年最後の東電政府交渉

2019年12月20日、東電政府交渉が行われました。福島県内から100名以上が参加。午前は官邸前の抗議行動、午後から東電政府交渉が行われ、農民連からの要請・要望を東電と政府に強く訴えました。



社会への転換を果たす」ことが提起された。

「農業者諸君! 別のやり方で生産しよう」

(フランス・ル・フォル農業大臣)

持続可能な社会政策を作るために、政権を取りに行く

若者たちを中心としたグローバル気候ストライキは、数百万人が参加し世界中で盛り上がり、地球環境の危機を訴えている。日本でもこれまでにない猛烈な台風により甚大な被害を受けた。この「気候危機」は地球温暖化により、さらに大きな被害をもたらすおそれがある。この世界的危機克服のため、国連はSDGs（持続可能な開発目標）で17の目標を立てた。その中心は貧困と飢餓の克服であり、農業、農民の果たす役割が重要だと訴えている。国際家族農業の10年は、小規模家族農業の重要性、優位性を評価し、気候危機への強靭性を活かすためにも必然とされる。そしてアグロエコロジーに率先して取り組むことで、農地の劣化防止や持続的な環境保全、生物多様化に貢献することができる。食糧自給率が37%と低下し続ける日本において、福島県農民連はSDGsに積極的に取り組み、次世代のために地球の一員としての責任を果たしていく。

これを日本で政策化していくためには、農民、広範な市民、野党との連帯・共闘し、政権を取りに行く覚悟が必要である。アグロエコロジーは自然生態系を模倣することで、効率的な栄養循環や生物種間の相乗効果を最大限に生かすことを目指す。例えば豆、とうもろこし、かぼちゃを混作すれば豆が窒素を固定し、とうもろこしの花が益虫をおびきよせ、かぼちゃはアレロパシー物質を放出して雑草の生育を抑制する。間作や緑肥、アグロフォレストリー、輪作や被覆作物、家畜も取り入れた有畜複合経営など伝統的な小規模農業の価値を評価する必要がある。これまでの企業や国がトップダウンで画一的な農法が普及されてきたが、アグロエコロジーは地域の自然状況や地域コミュニティの現場で作られていく。これからは、農民の立ち位置が、受益者から「共同研究者、創造者」へと大きく変わっていく。

これを日本の津々浦々で農民と市民が実践し政策実現と政権を手にする。そのためにも、30周年にふさわしい拡大を目指すことを参加者全員で確認しあつた。

太陽光発電用地募集

太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

- ① 約1000~2000m²の遊休地
- ② 日当たりがよい
- ③ 宅地、雑種地、林地、原野などの地目の土地
- ④ 賃貸条件:100円/坪(年)

ご連絡いただければ、現地を確認させていただきます。

【連絡先】福島農民連産直農業協同組合 担当:佐々木健洋
Tel 024-546-7229 fax 024-546-8804
メールアドレス:stake@vmail.plala.or.jp

